

## フィリピン編 トップ10入り果たし有望市場に

ビジット・ジャパン（VJ）事業における重点20市場の一つであるフィリピンは、昨年1年間の訪日旅行者数が前年比45.7%増を記録し、旅行需要の増加が著しい東南アジア諸国連合（ASEAN）の中にあつて、ベトナムに次ぐ高い伸びを示しています。年間200万人を超える規模となったASEAN市場で、好調な推移を維持しているフィリピンは、今後も力強い動きを続けることが期待される有望市場の一つとなっています。

### 査証要件の緩和などが追い風

フィリピンの人口は9943万人、国民一人当たりのGDPは2865ドル（何れも2014年）で、2015年における訪日フィリピン人旅行者は2014年の18万4204人を上回って過去最高を更新しています。

日本政府観光局（JNTO）によると、2015年に日本を訪れたフィリピン人旅行者数は、これまでの最高だった2014年の18万4204人を上回って過去最高を更新しています。フィリピンは2014年11月に、インドネシア・ベトナムとともに日本を訪問する際に求められる査証要件が緩和されたのに加えて、航空便の増加や円安ペソ高の外国為替レートにより訪日旅行需要の好調な動きが続いており、2015年には市場規模が20万人を大きく突破して、フィリピンとしては初めてトップ10入りを果たしました。

フィリピンからの訪日環境が好転したことを受けて、2015年2月に開催されたフィリピン最大の旅行見本市であるTravel Tour Expo 2015では、約4000人が訪日旅行商品を購入し、同年春の需要拡大に

大きく貢献しています。さらに、イースター休暇が4月初旬となった影響で、3月下旬の需要が大幅に増えたことから、同月の訪日フィリピン人旅行者数は前年同月比110.8%増を記録して、倍以上という驚異的な伸びを示しました。

### キリスト教遺産巡りを前面に

JNTOでは、フィリピン市場の好調な動きが続く中、秋冬の需要喚起に向けて消費者向けのキャンペーンなどを通じて、秋冬シーズンにおける日本のアイコンである「紅葉」や「雪」などを訴求。特に、2015年11月は、アジア太平洋経済協力（APEC）会議がマニラで開催されたのに伴うマニラでの特別休暇も追い風となり、訪日旅行者数は前年同月比53.0%増という下半期で最高の伸びを記録しています。

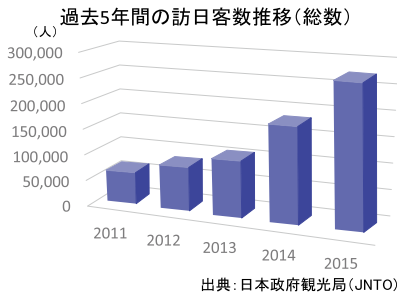
また、JNTOは、デステイネーションとしての日本の新たな観光資源としてキリスト教遺産巡りを前面に打ち出し、フィリピンの旅行会社を招請すると同時に専用サイトを開設するなど、積極的に新たな観光魅力の発信にも取り組みました。

フィリピンから距離的にも近い九州・沖縄方面では、複数の旅行会社が沖縄向けのツアーを催行しており、沖縄博物館、首里城、識名園、与那覇前浜ビーチなどが人気スポットとなっています。

九州各県の場合、フィリピンからのツアーに組み込まれている観光地としては、大濠公園・このしまアイランドパーク・東長寺（福岡県）、高取・虹の松原・七ツ釜（佐賀県）、長崎原爆資料館・端島グラバー園（長崎県）、大分マリンパレス水族館うみたまご・高崎山自然動物園（大分県）、熊本城・くまモンスクエア・熊本市動物園（熊本県）、宮崎神宮・えびの高原・高千穂岬（宮崎県）、桜島・仙巖園・維新ふるさと館（鹿児島県）などがあります。

### マニラとセブで認証制度紹介

JNTOでは、今年10月にもマニラとセブで現地



過去5年間の訪日外客数（月別）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
2011	6,612	4,643	4,532	5,706	4,989	3,993	4,805	5,364	5,222	6,153	5,293	5,787	63,099
2012	6,924	4,409	6,928	11,059	8,414	6,263	5,991	5,871	6,714	8,292	6,775	7,397	85,037
2013	7,501	5,049	12,177	12,943	11,256	7,441	6,739	6,725	7,886	10,877	8,644	11,113	108,351
2014	9,160	7,495	12,709	29,721	19,313	13,424	11,033	11,517	12,663	19,426	15,950	21,793	184,204
2015	14,428	14,190	26,786	36,673	27,847	18,619	16,374	14,794	15,843	25,685	24,443	32,679	268,361

※出典：日本政府観光局（JNTO）

旅行会社を対象としたセミナーと商談会を開催しており、2カ所のセミナー・商談会で、ツアーオペレーター品質認証制度の紹介と認証会社のPRプレゼンテーションを実施。マニラでは53社、セブでは30社のバイヤーが参加し、全バイヤーに同制度の認証会社小冊子（英語版）を配布しています。

また、個別商談会では、今回参加した認証会社との面談を強く推奨し、各社ブースへの誘導を行いました。

**主要業界団体に認証会社の推奨を要請**  
フィリピンには、主な旅行業界団体として、フィリピン旅行業協会（PTAA）とフィリピンIATA旅行業協会（PIATA）があります。

PTAAは、フィリピン版のIATAに相当する団体で、正会員は350社を数えます。こちらでは、PTAA幹部にプレゼンテーション資料に基づいて、ツアーオペレーター品質認証制度を紹介するとともに、認証会社をPRしました。また、PTAAは要請に基づいて、認証会社小冊子PDF（英文版）を全会員に配信することになっています。

PIATAは、フィリピン国内の旅行会社のうち、IATA認可の110社（マニラに90社、マニラ以外で20社）で構成されている組織です。PTAAと同様、認証制度紹介と認証会社PRを踏まえて、全会員への認証会社小冊子PDF（英文版）の配信に協力いただく予定です。

また、日本航空と全日空のマニラ支店に対して、海外旅行を取り扱うフィリピン国内の旅行会社から問い合わせがあった場合、認証会社を推奨していただくよう依頼しています。